

広報

Reuse Reduce Recycle

にしはりま

Vol. 6

2006年8月15日発行

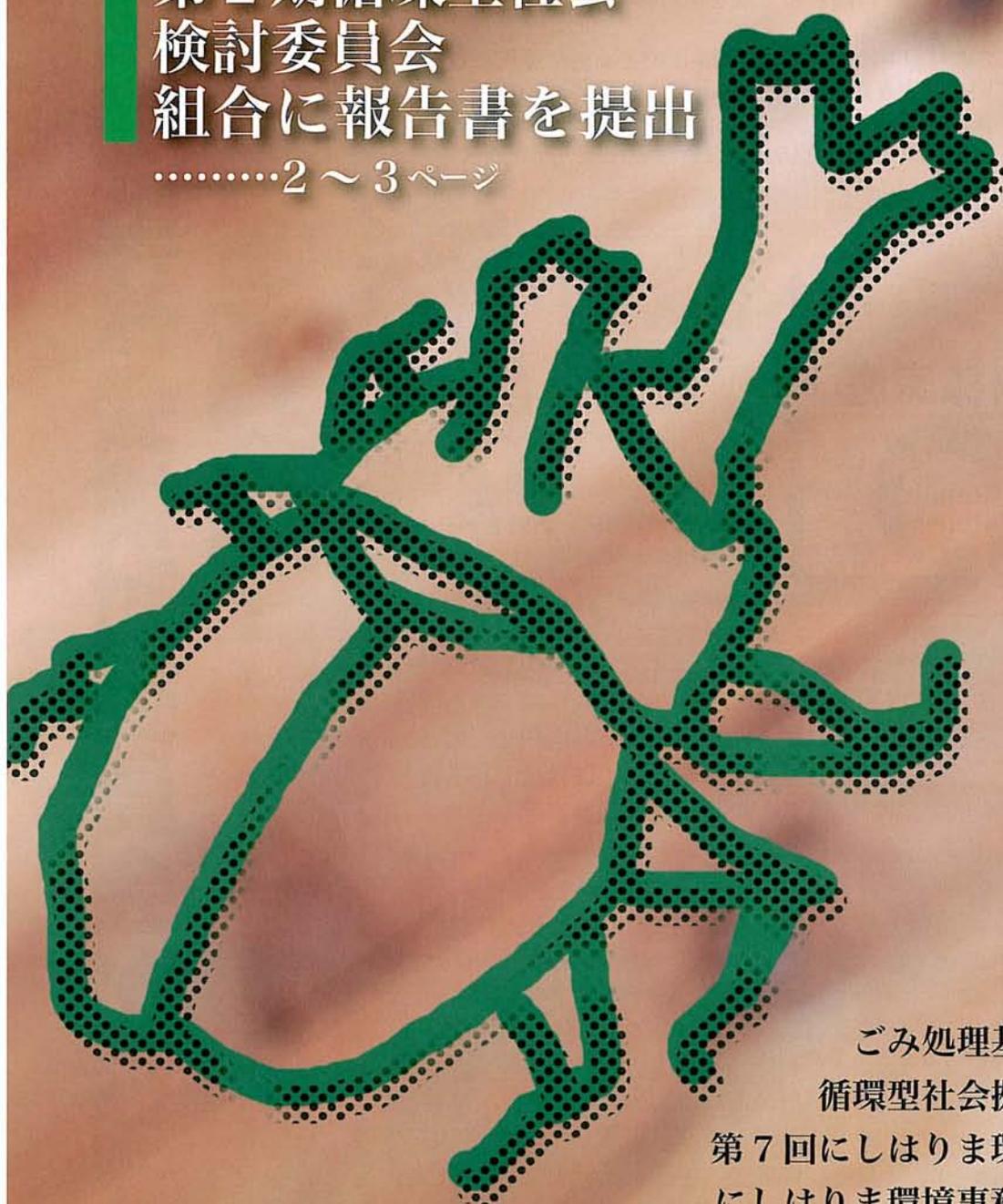
環境事務組合

〔第4次報告書〕

第2期循環型社会
検討委員会
組合に報告書を提出

.....2～3ページ

ごみ減量化のために
自律する家庭を築こう



- ごみ処理基本計画基本方針.....4
- 循環型社会拠点施設計画概要.....5
- 第7回にしはりま環境事務組合議会.....6
- にしはりま環境事務組合の主要経過.....7

www.nishiharima-kankyo.or.jp

第4次 報告書

第2期循環型社会検討委員会から 組合に報告書を提出！

このたび、第2期循環型社会検討委員会から、にしはりま環境事務組合に対して、答申書（第4次報告書）が提出されました。

この検討委員会は、学識経験者及び各市町（旧11町）から2名ずつ選出された23名の委員で構成されたもので、「一般廃棄物（ごみ）の減量・リサイクル・適正処理を行うための住民の協力」をテーマに、平成16年9月から検討が始められました。

これまでの10回の検討会を経て提言がまとめられ、組合に答申されたもので、今後、組合はこの答申を受けて、各提言を施設整備や運営の計画に反映することとしています。

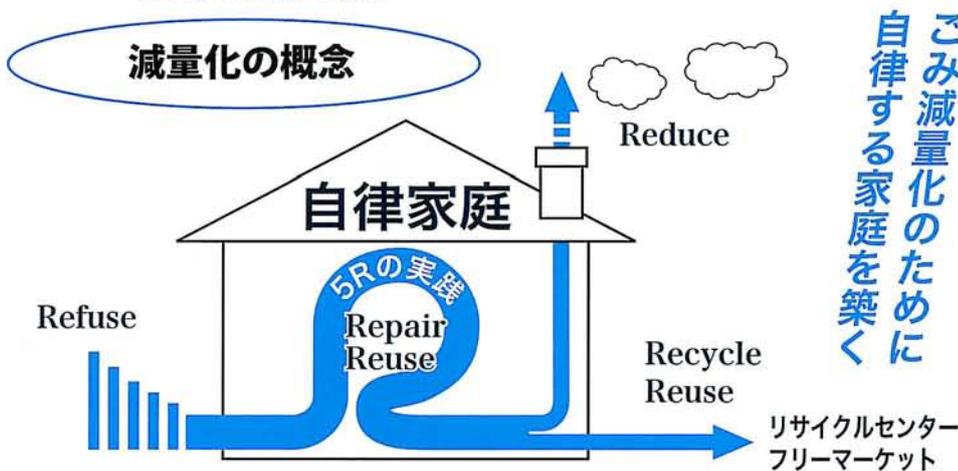
ここで提言の概要を紹介します。

1. ごみ減量化に関する提言

提言

ごみの減量化を实践するうえで、自らを律する「自律家庭の構築」をイメージした「減量化の概念」、今後のごみ減量化の目標とする具体的な「数値目標」、及び住民・行政として取り組む具体的な「減量化への取り組み」を提言します。

なお、減量化への取り組みについては、関係市町と十分な連携を取り、施策等に反映していくことを願います。また、今後住民等への啓発では、減量化の取り組み実績を公表するとともに、ごみ減量化のアイデア募集を行うなど、より具体的な減量化に向けた資料の作成・配布等についての検討を願います。



- 5 Rとは、
- Reduce：リデュース（ごみになるものを減らそう）
 - Reuse：リユース（何度も繰り返し使おう）
 - Recycle：リサイクル（リサイクルしよう）
 - Refuse：リフューズ（不要な物は受け取らないようにしよう）
 - Repair：リペア（修理して長期間使おう）

の5つの取り組み。

●入口側でできること（例）

- ステップ1：買い物袋を持参・レジ袋を断る・無駄な食材を購入しない
- ステップ2：簡易包装の依頼
- ステップ3：
 - ・1品目ノートレイ食品の購入
 - ・使い捨て容器の飲料をできるだけ購入しない
 - ・不要なダイレクトメールは受け取らない

●出口側でできること（例）

- ステップ1：食事は、作りすぎず残さず食べる
- ステップ2：不要な衣服など売ったり、譲ったりする

2. リサイクルセンター施設整備に係る提言

提言

視察研修報告書の感想等を基に、プラント部門については「設備の内容」、「環境の保全」、「施設の管理・運営」、プラザ部門については「機能」、「施設の内容」、「情報の発信」、「人材の育成」の項目毎に提言します。(提言内容は割愛)

なお、リサイクルセンターの施設整備については、収集形態、資源化品目に対応して適切な設備の導入の検討を願います。



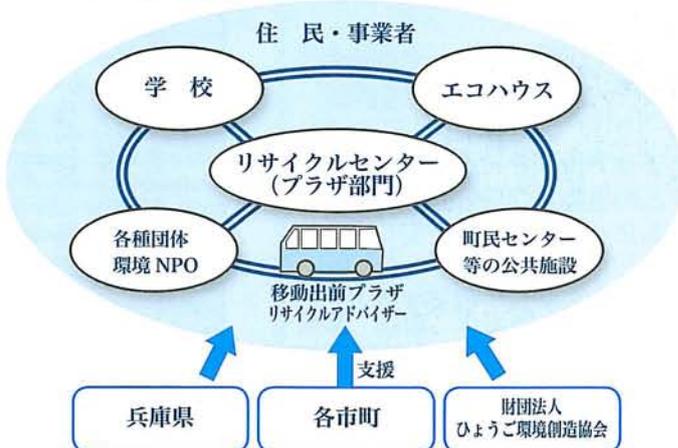
3. リサイクルセンター(プラザ部門)と周辺施設とのネットワーク化に関する提言

提言

ごみの排出者としての住民(家庭)及び事業者とリサイクルセンター(プラザ部門)を利活用する住民及び各種団体と周辺施設とを結ぶ「ネットワークの概念」、及び施設の立地条件を踏まえた周辺施設との連携や人材活用を図る「ネットワークの構築」を提言します。

なお、エコハウスとの連携については、現在、組合と県が協議を進めていますが、整備予定が平成18年度であることから、早急に担当部局と協議を行い、組合が行うリサイクルセンターの施設整備計画に生かすとともに今後の有効な連携についての検討を願います。

ネットワークの概念



ネットワークの構築

○エコハウスと強い連携を保ち、お互いに持続的な循環型社会の形成をめざし、環境啓発・普及機能の相乗効果を図る。

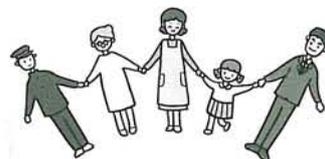
○「出前プラザ(仮称)」のフットワークを生かし、学校、地域、公共施設等で出前講座を開催し、5Rの普及啓発を図ることを検討する。

○公共施設や各種団体と連携し、不用品のリサイクル・リユースシステムの構築を検討する。

○リサイクルアドバイザー(仮称)や環境NPO団体等との人材のネットワーク化を検討する。



第2期検討委員会の皆さん



循環型社会拠点施設 計画概要をお知らせします



1. 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の基本方針

今日、これまでのごみを燃やして埋め立てる社会から、ごみの発生を抑制し、できる限りごみを資源として利用する「循環型社会」の構築が大きな課題となっています。

そこで、以下の5R(Rは頭文字)

- ①ごみの排出抑制 (Reduce: リデュース)
- ②使用済み製品・部品の再使用 (Reuse: リユース)
- ③原材料としての利用などの再生利用 (Recycle: リサイクル)
- ④不要なものを断る (Refuse: リフューズ)
- ⑤修理・修繕による長期間の使用 (Repair: リペア)

を進めることで、ごみの減量化を図るとともに、ごみを安全かつ適正に処理することができるような体制整備を図ることが重要となります。

これらの基本的方向及びごみ処理事業の現状と課題を踏まえ、本組合におけるごみ処理に係る基本方針を以下のように決めました。

〔ごみ処理基本計画基本方針〕

- ①循環型社会の構築
住民・事業者・行政の三者の協働により、「循環型社会」の実現をめざして、「適正処理」から「循環処理」へのシステム変換を推進する。
- ②環境保全
環境への影響を最小限にするため、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクル等最適なごみ処理システムの構築及び施設整備をめざす。
- ③住民参加
積極的な情報公開と住民参加型のごみ処理システムを構築することにより、廃棄物全般に関する住民意識の向上を図る。

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の見直し

このたび、平成14年度に策定された「一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」の見直しを行いました。策定時から期間が経過しているため、最新データにより見直しを行い、ごみ排出量予測や処理規模の改訂が行われたものです。この見直しを基に、施設整備が計画されましたので、その概要をお知らせします。

2. 目標の設定

目標年次は、基準年度を平成16年度、目標年度を施設稼働予定の平成22年度とし、以降は現状を維持することを目標としています。

〔平成16年度→22年度〕

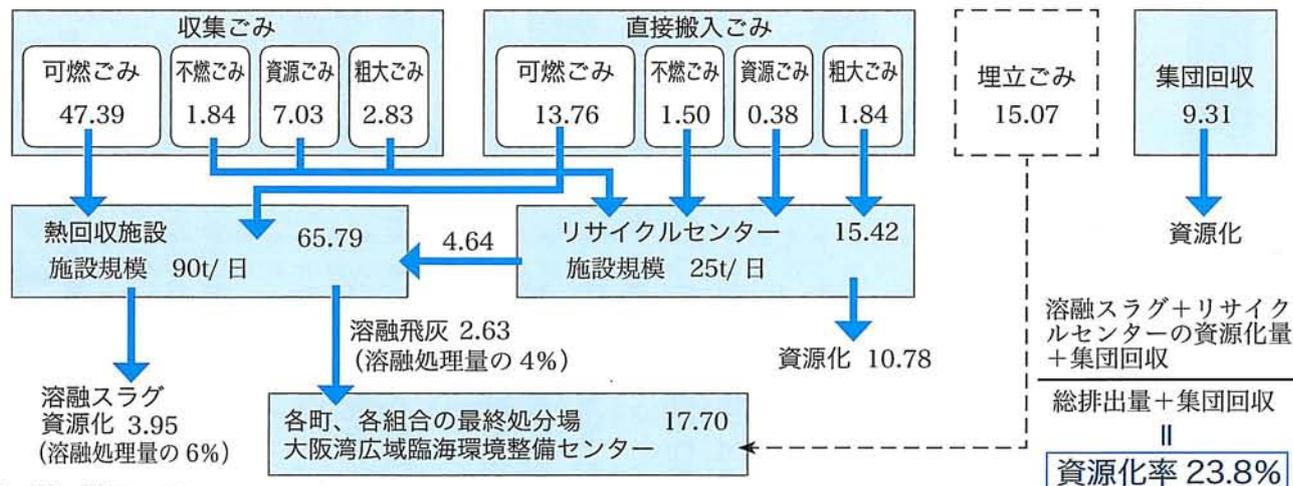
- ①排出量：総排出量として3.3%減
 - ・計画収集量は、1人1日当たりの排出原単位を維持する。
 - ・直接搬入量は、過去4年間の平均値を維持する。
- ②再生利用量：23.8%まで向上
 - ・現状18.8%(RDFを除く)を5ポイント向上
- ③最終処分量：約40%の削減
 - ・平成9年度の最終処分量の半減をめざす。

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画とは…

長期的・総合的な視点に立つて、計画的なごみ処理の推進を図るための基本方針となるもので、ごみの排出抑制やごみ発生から最終処分に至るまでの、ごみの適正な処理を進めるために必要な基本的事項を定めるものです。

3. ごみ処理フロー（平成22年度の予測）

平成22年度のごみの計画処理量は、33,454 t/年（計画収集量：21,569 t/年、直接搬入量：11,885 t/年）であり、1日の平均処理量は91.6 t/日の計画です。計画処理量の内訳を、下記のフロー図に示します。（単位はt/日）



表中の数値の単位は、t/日

事業計画概要

1. 施設計画

- ◇事業予定地：佐用郡佐用町三ツ尾八町 483 番 8 外
- ◇工期：[工事] 平成18年度着工・平成21年度完成予定
[施設供用] 平成22年度開始予定
- ◇土地利用面積：約6ヘクタール（施設用地…約3ヘクタール、周辺・場内緑地…約3ヘクタール）

熱回収施設（ごみ焼却溶融施設）		
処理能力	最大90トン/日（45トン/24時間×2基）	
焼却対象物	一般廃棄物（可燃物）	
設備	燃焼設備	流動床式ガス化溶融炉
	排出ガス処理設備	ろ過式集じん器（バグフィルタ）、触媒脱硝装置
	排水処理	再利用（プラント系排水）、公共下水道又は合併浄化槽処理（生活系排水）
	飛灰処理	薬剤処理
	余熱利用	発電、給湯、冷暖房

リサイクルセンター		
処理能力	最大25トン/日（5時間）	
処理対象物	一般廃棄物（粗大ごみ、資源ごみ）	
設備	破碎設備	低速回転式、高速回転式等
	選別設備	人力選別、磁力選別、機械選別等
プラザ設備	啓発展示等設備	

2. 工事計画

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
諸手続・調査・設計等	■				
防災・進入道路・造成工事		■			
熱回収施設建設工事			■	■	供用開始
リサイクルセンター建設工事			■	■	供用開始

第7回

にしはりま環境事務組合議会

平成18年2月27日（月）、兵庫県立先端科学技術支援センターで、第7回にしはりま環境事務組合議会定例会が開かれました。本議会では、副議長選挙をはじめ、諸報告、専決処分の承認、平成17年度補正予算及び平成18年度予算の議決が行われました。

副議長の選挙

選挙の結果、副議長に梶原義正氏（佐用町）が就任されました。

行政報告

一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の改訂状況等の報告が行われました。

報告

1件の報告が行われました。
①にしはりま環境事務組合を組織する地方公共団体の変更、共同処理する事務の変更及び規約の一部変更の件

承認

1件の専決処分が承認されました。

議案

た。

①職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
【承認】

を構成する団体が2市3町から3市2町に変わりました。
このことにより、組合規約に定める構成団体の名称や共同処理する事務などが改正されました。

②平成17年度一般会計歳入歳出補正予算
【可決】

（歳入歳出それぞれ1,365万1千円を減額し、歳入歳出総額を8,178万4千円とする）

③平成18年度一般会計歳入歳出予算
【可決】

（歳入歳出総額を8,486万8千円とする）

にしはりま環境事務組合を組織する地方公共団体の変更、共同処理する事務の変更及び規約の一部変更について

3月27日の安富町の姫路市編入合併に伴い、にしはりま環境事務組合



平成18年度の主な事業計画

- ①建設予定地周辺地域住民の理解と協力の確保
- ②広い住民の理解と協力の確保（旧三日月町域・光都・鞍居地区等）
- ③専門的見地からの指導助言の確保
- ④圏域住民の参画と協働、透明性の確保
- ⑤都市計画法に基づく手続き
- ⑥循環型社会拠点施設整備
- ⑦熱回収施設等入札・発注業務
- ⑧事務組合の適正かつ民主的・効率的運営

【新たな組合構成市町】

姫路市・たつの市・宍粟市・上郡町・佐用町



にしはりま環境事務組合の主要経過

(平成 17 年 9 月～平成 18 年 6 月)

[平成17年]

- 9 月 9 日 新宮町議員協議会
- 9 月15日 佐用郡内正副管理者会
- 9 月17日 第7回循環型社会検討委員会
- 9 月20日 正副管理者会
- 9 月29日 上郡町議員協議会
- 9 月30日 金出地区自治会長、播磨科学公園都市の環境を考える会会長、播磨・光都21自治会長から抗議文（通告書）回答

- 10月 5日
 ～22日 建設予定地周辺 6 集落住民説明会
- 10月25日 第15回建設予定地周辺地域連絡協議会
- 10月29日 第 8 回循環型社会検討委員会
- 11月17日 正副管理者会議
- 11月19日
 ～27日 建設予定地周辺 6 集落住民説明会
- 11月28日 正副管理者会議
- 11月29日 第16回建設予定地周辺地域連絡協議会
- 12月13日 第17回建設予定地周辺地域連絡協議会（正副会長会）
- 12月17日 第9回循環型社会検討委員会
- 12月17日 建設予定地住民説明会
- 12月21日 第18回建設予定地周辺地域連絡協議会（正副会長会）



[平成18年]

- 1 月17日 第1回調整会議
- 1 月23日 第2回調整会議
- 1 月29日 第3回調整会議
- 2 月17日 にしはりま環境事務組合議会全員協議会
- 2 月27日 第7回にしはりま環境事務組合議会
- 3 月 4日 第10回循環型社会検討委員会
- 3 月24日 組合規約変更知事許可
- 4 月14日 第19回建設予定地周辺地域連絡協議会
- 5 月 2日 正副管理者会議
- 5 月 9日 第11回循環型社会拠点施設整備専門委員会
- 5 月20日 上郡町鞍居地区住民説明会
- 6 月 1日 西播磨 3 市 2 町循環型社会形成推進協議会
- 6 月 7日 にしはりま環境事務組合議会運営協議会
- 6 月 7日 にしはりま環境事務組合議会全員協議会
- 6 月16日
 ～25日 建設予定地周辺 6 集落住民説明会
- 6 月17日 佐用町多賀地区住民説明会
- 6 月22日 生活環境影響調査結果準備書（要約版）説明会 [穴粟市]
生活環境影響調査結果準備書（要約版）説明会 [旧三日月町]
- 6 月24日 上郡町鞍居地区住民説明会
- 6 月26日 生活環境影響調査結果準備書（要約版）説明会 [佐用町]
- 6 月29日 生活環境影響調査結果準備書（要約版）説明会 [上郡町]
- 6 月30日 生活環境影響調査結果準備書（要約版）説明会 [たつの市]

進めよう！私たちのリサイクル

リサイクルは3つのRで実行しよう。1 つめのRは、Reduce：リデュース(ごみの発生をおさえる)、2 つめのRは、Reuse：リユース(再使用する)、3 つめのRは、Recycle：リサイクル(再資源化して使用する)という意味なんだ。つまり、まず、ごみを出さずに再利用して、それでもだめなら資源にして利用しようということなんだ。兵庫県では、この3Rに、Refuse：リフューズ(不要なものは受けとらない)、Repair：リペア(修理して長期間使う)を加え、5Rを進めているんだよ。

リサイクル(5R)を理解しよう



役割分担で、リサイクルを実行しよう

難しい言葉だけど、要は「使い捨て」ではなくて、「使い直し」をすることを言っているんだ。そうすれば、地球の資源を節約できると同時に、ごみを減らすことができると考えられているんだ。



循環型社会って、なに？

ごみを処理するにはいろいろな役割があるんだ。分別して出す役割、集める役割、処理する役割、そしてそれを考えたり、決まり(法律)を作ったりする役割があって、それがうまく循環してリサイクルが実行できるんだ。ぼくたちにもできることはたくさんあるはず。ぼくたちのまちの「便利」が、多くの「ごみ」を出している原因なら、残してしまうような無駄な食べ物を買わないことや、過剰な包装をしてもらわないことも、ぼくたちが地球のためにできるリサイクルのひとつなんだ。

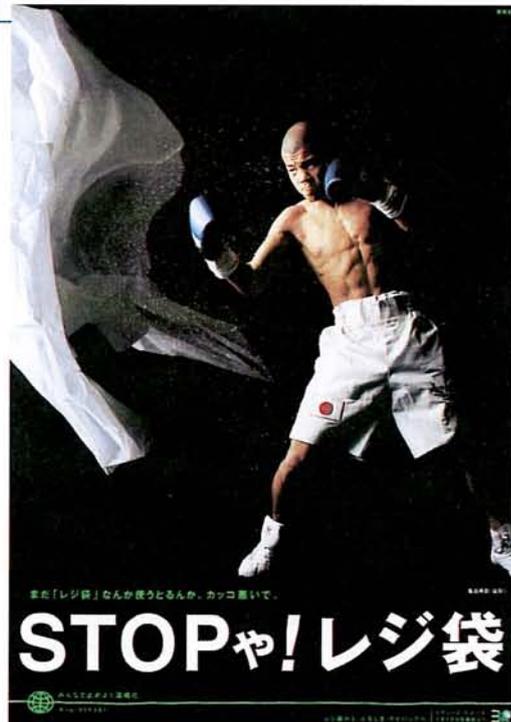
ホームページをご覧ください。

にしはりま環境事務組合では、ホームページを開設し、これまでの経緯や協議内容などを公開しています。下記のURLをご覧ください。
URL:<http://www.nishiharima-kankyo.or.jp>



レジ袋削減！

環境省では、容器包装ごみを削減するため、マイバックやふるしきを持参してレジ袋を断ることを呼びかけています。



1人が1年間で使用する手提げ袋は、なんと230枚。ふだんのお出かけの際には、小さく折りたたむためのバックを常に携帯しておけば、買い物袋は不要になります。そろそろ自分の買い物バックを、当たり前前のことにしませんか。